

## 第47回国公女性交流集会 開催

### ひろげよう 連帯と共同の輪

### ～見きわめよう真実 つくろう明るい未来を～

国公女性協は、6月10～11日福島市飯坂町で第47回国公女性交流集会を開催しました。20歳代～50歳代以上の幅広い年代の仲間が、北は北海道、南は沖縄から8単組、6県国公、218名参加しました。

1日目の全体会では、橋本恵美子女性協議長の主催者挨拶、岡部勘市国公労連中央執行委員長の来賓挨拶に続き、鈴木敦子東北ブロック実行委員長から「福島の本当の青い空を見て、おいしい食事や温泉で日頃の疲れを癒やして帰ってほしい」と歓迎挨拶がありました。

今回の記念講演は、和光大学教授でジャーナリストの竹信三恵子さんを迎え「日本型ショックドクトリンと『働き方改革』～災害から見える女性の人権をめぐる課題～」と題してお話いただきました。竹信さんは「ショックドクトリンとは、大災害などの混乱に便乗した新自由主義的政策のことで、今、



竹信三恵子さん

安倍政権は、北朝鮮ミサイルキャンペーンなどで国民の危機感をあおり、公的な社会保障や人権保障などといっている場合ではないとして、企業に頼る政策をすすめている」と話し始めました。「その状況は、東日本大震災時に女性が置かれた状況（避難所における着替えや授乳場所の設置要求や化粧水などの女性特有のニーズも『ぜいたく、わがまま』といわれるのではないかといい出せなかったことや、男性はガレキの片付けなどで収入を得たが女性は避難所の炊き出しなどの無償労働を行っていたことなど）と似ている。アベノミクスが進む中で『仕方がない』『私が我慢すれば』ということが日常化されており、安倍政権がいう『女性活躍』は『安心』『人権』より『(経済成長のための) 活躍』となっている。」とつづき、その後も安倍政権が出してきた「働き方改革」の問題点などを鋭く追及し、その狙いを見抜き対抗するためにはどうしたらいいのかなどを話されました。参加者からは「被災地で女性がどのような問題を抱え込んでいたかわかりやすかった」「『人権』を意識することの大切



鈴木敦子東北ブロック実行委員長



さを知ることができて良かった」「女性活躍と働き方改革の落とし穴を明確に話してもらいうれしかった。女性は今でも活躍しています。何を今更と思うばかりです」「なんとなく感じていた政治への違和感がすっきりし問題意識へと変わった」「職場のワークライフバランスが進んでいるように見えてもしんどくなるばかりだと納得した」と感想が寄せられました。

記念講演の後の休憩時間には、女性協が行う日本母親大会記念品や国公労連作成のトートバッグ等や実行委員会が行う交流集会物販、集会のキャラクターが入ったクリアファイルなどを買って求める参加者がいました。また同時に竹信さんの最新新書「正社員消滅」のサインセールも行いました。

休憩後、橋本女性協議長より、共謀罪廃案、改憲反対の運動や、辺野古新基地建設反対のとりくみなど、わたしたちをとりまく状況や国家公務員をとりま



サインセール中

く状況、また、国公労連女性協のとりくみについての基調報告を行いました。

全体会後半では、職場・地域からの報告として、社保庁職員不当解雇撤回（秋田事案）のたたかい、国立病院院内保育所を守



全医労の森さん



社保庁裁判秋田事案原告の小畑さん

るたたかい、東日本大震災後の福島

の状況について、それぞれ職場や地域で奮闘している方々から報告いただきました。参加者からは「このような『現場からの声』は本当に心にぐっとくさびが入るような気持ちになり、自分も黙っていられなくなる。1人の小さな声を集めて大きな声にし、1人の悩みや苦しみをみんなで分け合ったり解決したり。本当に組合の大切さが身にしみた。つらい立場に置かれた人たちのことを他人事とせず、一緒に考えていきたい。」「各職場の報告を聞き、きちんと主張して職場環境を守っていくことの大切さを認識しました。」との感想が寄せられました。



福島県農民連  
根本会長

夕食・単組交流会は、地元の安達太良太鼓演奏に始まり、おいしい料理に舌鼓をうちながら単組紹介や実行委員紹介などで、大変盛り上がりました。

2日目は4つの分科会とフィールドワークに分かれて学習・交流を図りました。

第1分科会は女性協が行っている“第5回わたしたちの平和ゼミナール”として「沖縄の悲しみや怒りを知ろう、伝えよう」と題し、沖縄県国公副議長の仲里孝之さんを助言者に迎え、現在、沖縄で何が起きているのか、沖縄の人の思いは？など沖縄の歴史にも触れながら学習をしました。参加者からは



安達太良太鼓の皆さんと一緒に参加者も演奏しました

「沖縄の歴史について、全く習っていなかったことだらけで、驚きとショックを感じた。是非皆さんに聞いてほしいと思いました。沖縄県民のたたかいを国民全体のものにしていかなくてはならないとつくづく思った」「沖縄の歴史を学ぶこととあわせて政治的行為に対すること、辺野古反対に対する国民の監視にかり出されていること。沖縄の仲間の苦しみを知り恐怖も感じた」との感想がありました。

第1分科会



第2分科会



第2分科会は「いきいきと働き続けるために自分のこととして社会保障制度を学ぼう」と題し、中央社会保障協議会事務局次長の前沢淑子さんを助言者に迎え、働き続けるために現在の社会保障制度を学び、安倍政権がどのように改悪し、これからどうしようとしているのかを話していただきました。参加者からは「現状が勉強でき、話を聞いて私たちや介護を受ける本人がまず意識を持つことが大事と思った」「世の中が自己責任社会へと変貌していっているような錯覚に気づきました。憲法 25 条、人が一番大切な社会こそが目指すものであると強く思いました」との感想がありました。

第3分科会は「語り合おう！職場の悩み、不安、なんでも」と題し毎年好評なしゃべり場で、助言者は女性協会の橋本恵美子議長です。同じ国家公務の職場でも、日勤であったり深夜勤務があったり、窓口業務があるところとないところがあり、



第3分科会

り、仕事内容一つとってもお互い知らないことばかりでした。育児休業制度ができる前に出産された先輩や育児休業を取ったことのある人から経験談が話され、参加者からは「他の職場の状況や業務を聞くことができ興味深く、元気、力をもらいました」「家庭・育児の話など女性の集まりでないといけない

お話を聞いてよかった」「月並みだが改めて、仕事と家庭の両立には個人の努力だけではなく家族のつながり、職場地域とのコミュニケーションが大切だと実感した」と感想がありました。

第4分科会は「食べ物の安心・安全ってどういうこと？福島の生産者の思いを聞いてみよう」と題し、全体会での地域からの報告に引き続き、福島県農民連会長の根本敬さんを助言者に迎え、福島で農業を続けている思いや農業に関わ



第4分科会

る様々な話をしていただきました。参加者からは「“食”はまさに私たちの生きる基本のことなのに、ないがしろにしているあまりいろいろな問題に広がっていることを自覚しました」「福島県で農業をやることの厳しさやそれ故に勉強され解決していこうとする努力に頭が下がります。我々も知って応援しなければならぬと感じました」「生産者の方は実害を受け大変な思いをされている一方で、我々消費者は少しいい加減だったのかもしれない。食料やエネルギーを無駄にしない選択をしなければいけないと思った」との感想がありました。

フィールドワークは、「被災地の現状を実際に見てみよう」と実行委員会が企画しました。NPO法人



フィールドワーク

被災地福島の旅実行委員の渡辺勝義さんに助言者として現地を案内いただきました。復興の前提となる福島第一原発の事故収束と廃炉への見通しは立っていません。

仮設住宅も損傷が激しく、復興住宅建設も遅れている状況です。部分的な避難指示解除がされても、社会基盤が整備されな

ければ戻ることはできません。そのような状況を目の当たりにした参加者からは「6年の長さを感じます。あまりにも長すぎる、全く復興できていないことに驚きました。月命日でしたので更に悲しみ怒りを感じました」「実際にきてほんの数分走っただけで町から人の気配が消える不気味さを感じることができた。インフラ、店、病院、学校や仕事など、人が『生活』を送るにはたくさんのものが



が必要で、東電や国がやむを得ずとはいえ、取り上げたなら返すときは責任を持ってフォローしろ！と

思った。」「被災地の現状にショックを受けた。ニュースや新聞等で情報に触れることはあったが現場を見て、もしこれが自分の住んでいるところだったらと思うと恐かった」「6年経ってもまだ残っているがれきの山、除染されたフレコンの山、悲しいくらい青くてきれいな海と空を見ていて涙が出た。」と多くの感想が寄せられました。

集会の最後では、今こそ、憲法を職場や暮らしに生かし、貧困や格差のない平和な社会をつくるために、私たち女性がつながりあい、しなやかにしたたかに運動を進めようと呼びかけた「アピール」を確認しました。フィールドワーク参加者を除いた集会参加者全員で「共謀罪反対」のプラカードを持って集合写真を撮り集会の締めくくりとしました。

集会開催にあたり、東北ブロックが実行委員会を立ち上げ、企画・運営、物販、広報などにとりくみました。東北の仲間の要求を掲げたタペストリーで手作りした看板が参加者を出迎え、マスコットキャラクターの「福っ娘〜ず」が至る所に出現し、実行委員は福っ娘〜ずがプリントされたおそろいのTシャツを着用し、集会を大いに盛り上げました。

忙しい中、集会成功にむけて、きめ細かく対応してくださった実行委員のみなさん、本当にありがとうございました。



アピールを読み上げた五十嵐実行委員



集会成功に向けて奮闘いただいた東北ブロック実行委員会のメンバー



フィールドワーク参加者を除いた集会参加者全員で「共謀罪反対」のプラカードを持って記念撮影

第 47 回国公女性交流集会の一コマ



参加者を出迎えた実行委員会手作りのタペストリーと名札



物販も大盛況！



集会まとめを行う永田淳子東北ブロック  
実行委員会事務局長

